

ノ外形ノ上ニ多少ノ相違ガアル場合ニ二種ニ區別サレテ居タノデ結局同一種デアルノデハナイカ  
以上二ツノ疑問ノ解決ハ今後多數ノ標本ヲ検シタ後ニ俟ツベキモノデ、今日迄ノ所デハ *S. crispa* ガ明カニ日  
本ニ產シ、歐洲ノモノト同様針葉樹林ニ生ジ、私ガ曾テ紀州高野山デ採ッタ標本ノ中ニハ今デモ櫟ノ落葉ガ多  
數入ツテキルカラ夫レハ櫟樹ノ許ニ生エテ居タ事ガワカル、又 *S. Luminosa* ノ方ハ歐洲デハ雜樹林中ニ生ジ主  
トシテオーレ樹下ニ生ズルトイフコトデアルカラ、菌ノ外形ヤ胞子ノ形態以外ニ此事モ參考ニシテ邦產ノ本屬  
ノ菌ノ種類ヲ將來豊富ナル標本ニ依リ調べテ前記ノ疑問ヲ解決シタイモノデアル

## ○稀菌かごたけ東京ノ郊外ニ產ス

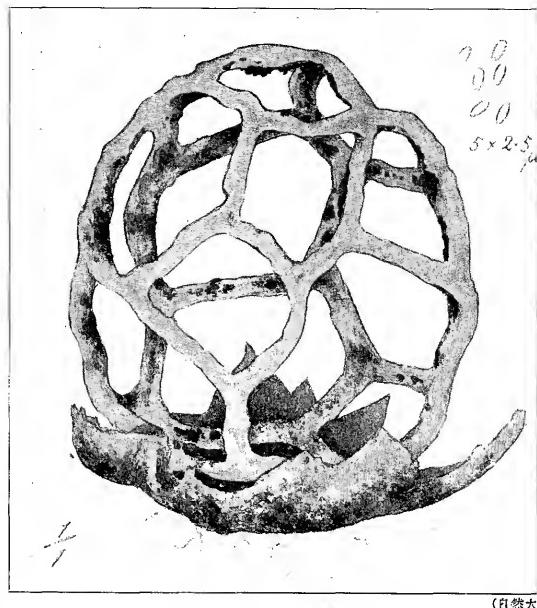
(昭和五年二月稿)

理學博士 川 村 清一

曾テ本誌第五卷第八號(昭和三年八月發行)ニ「かごたけトあかかごたけ」ト題シ腹菌族中ノ此ノ兩奇菌ガ我  
ガ日本ニモ產シ、前者ハ大正七年五月福島縣西白河郡古關村ニ於テ唯一回採レタコトガアリ、後者ハ昭和二年  
七月九日武州高尾山ニ於テ、又同年九月二十六日和歌山縣西牟婁郡川添村ニ於テ採レタノデ共ニ其ノ邦產アル  
コトヲ知ルニ至ッタ旨ヲ記シテ置イタ

あかかごたけ *Clathrus cancellatus* TOURNEF. ハ歐洲南部ニハ普通ニ產シ、北米合衆國デモフロリダ等ノ地ニ稀  
ニ產スルガ形態ガ奇異ナノト色ガ紅色デ人目ニ着キ易イカラ歐米ノ博物館ニハ其ノ標本ヲ備ヘ又菌類學書中本  
菌ヲ圖示シテキルモノガ多クアツテ *Clathrus* 屬ヲ代表セル種ノ様ニナツテキル  
然ルニかごたけ *Clathrus gracilis* (Berk.) SCHLECHT. ト之レニ似テキル別種 *Clathrus cibarius* (TUL.) FISCHER.  
トハ、未ダ歐米ニハ發見サレタコトガ無イ、此前者ハ濠洲ニ產シ、後者ハニュージーランドニ多ク、昔時ハ土  
人ガ之ヲ採テ食用ニ供シテ居タモノダト謂ハレテキル程デ「本誌第五卷第八號「かごたけトあかかごたけ」ト題

稀菌かごたけ東京ノ郊外ニ産ス



第一圖

*Clathrus gracilis* (BERK.) SCHLECHT.

かごたけ

東京市外上目黒諦訪山原藤道氏別荘内ニテ昭和五年二月十一日原賞氏採集

(自然大)

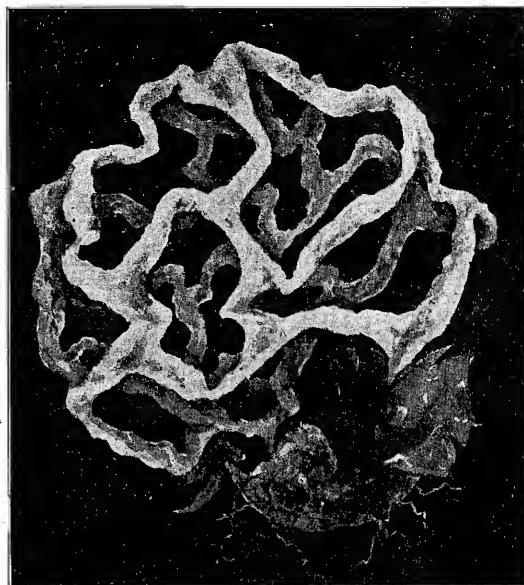
スル記事中、二九二頁九行ニ *Clathrus cibarius* (TUL.) FISCHER. ガ歐米デ普通ト書イテ置イタノハ「ニュージーランドニ普通」ノ誤、稀ニハ濠

洲ヤ南米ノテリ、ブラジル等ニモ産スルガ、歐米デハ未ダ發見サレナイ、從ツテ歐米ノ博物館ニ於ケル標本モ極メテ稀デアリ、且歐米ヘハ是等ノ菌ノ標品ハ乾燥品又ハ酒精漬標本トナツテ

送ラレテキルニ過ギナイカラ、是等ノ菌ノ生ノ儘ヲ着色圖ニ正シク寫生シタモノハ一ツモ無ク、寫真デモ多クハ浸液標本ヤ乾燥標本等ヲ撮影シタト云フノガ在ルニ過ギナイノデ菌類學者デサヘモ是等ノ菌ノ正シイ色ヤ形態ニ就テハ誰モ觀察シタコトガ全ク無カツタノデアルカラ是等ノ菌ノ記載ハ何レモ物足ラヌ處ガアツタ(一八四四年ニ TULASNE ガ最初ニ *Clathrus cibarius*

ニ就テ記載シタノハニヨーナーランドデ採レタ酒精漬標本ニ據ツタモノデ此方ダケハ天然ノ形態ガ能ク知ラル、存サレテ居ル)

*Clathrus cibarius* ノ方ダケハ漸ク今カラ「十一年前ニ生標本ヲ多數撮影シタ寫真ガ故ロイド氏ノ著 Lloyd's Synopsis of the known Phalloids (1909) ハ六一頁ニ圖示セラレタノデ此方ダケハ天然ノ形態ガ能ク知ラル、



(自然大)

## 第二圖

Clathrus gracilis (BERK.) SCHLECHT.

かごたけ

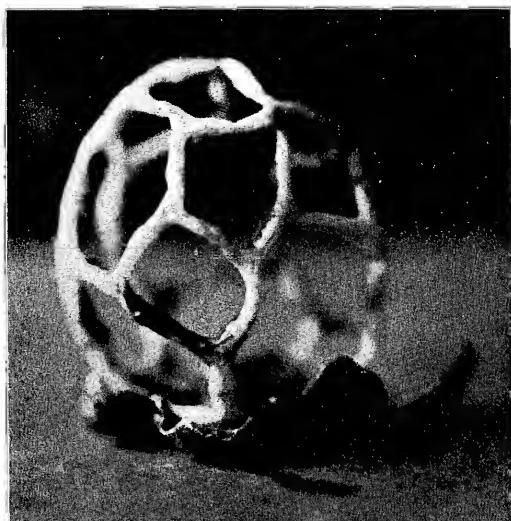
東京市外上目黒津防山原氏別荘内ニテ昭和五年二月十一日原賀氏採集

ニ至ッタノデアル

ロイド氏ハ研究ニ困難ナ禪菌類ヤ多孔菌中ノ軟肉質ナルあはたけ類等ヲ除イテ木質、革質ナル多孔菌類ヤ乾燥シテ標本ヲ保存シ得ル腹菌類等ヲ限ツテ標本ヲ廣ク各地カラ集メ北米合衆國オハイオ州シンシンナチ市ニ菌類ニ關スル博物館圖書館トヲ設ケ、歿スル迄努力シタ人デアルガ、氏ハ一時 Phalloids 研究ニ大ニ興味ヲ持チ各國ノ同業者ニ向ツテ特ニファロイド類ノ標本並ニ寫真ハ最モ所望スルト言ツテ依頼狀ヲ發シタコトガアツテ其當時かごたけノ正シイ生ノ形態ノ寫真ヲ切望シ私ノ許ヘモ毎度手紙ヲ送ラレタガ如何セン本菌ハ幾ラ焦ツテモ他ノ普通ノフアロイド類ノ様ニハ容易ニ手ニ入ルモノデナイヲ同種トシ Clathrus gracilis ヲバ C. cibarius ノ一變種ト見做シテ分類スル學者モアル

カラ發見ノ機會ヲ待ツヨリ仕方ガ無ッタ、又本菌ガ普通ニ產スルト云フ濠洲カラサヘモ完全ナ生標本ノ寫真圖ハロイド氏ノ手ニモ入ラズシテ年月ガ經過スル中ニ氏ハ物故シテシマッタノデアル Clathrus gracilis ト Clathrus cibarius トハ前述ノ通リ互ニ酷似シテキルモノデ只後者ハ形ガ大キク、網ヲ形成セル菌體モ太クテ徑一「セ、メ」以上ニ及ビ、又皺ノ多イノガ主ナ特徵トサレテキルノミデアルカラ此ノ兩菌ヲ同種トシ Clathrus gracilis ヲバ C. cibarius ノ一變種ト見做シテ分類スル學者モアル

稀菌かごたけ東京ノ郊外ニ産ス



(昭和五年二月十一日照対撮影)

第三圖  
*Clathrus gracilis* (BERK.) SCHLECHT.

かごたけ

東京市外上自黒諭訪山原氏別荘内ニテ昭和五年二月十一日照対撮影

又是等ノ兩菌ヲバあかかごたけト比較シテ *Clathrus* 卽  
チあかかごたけ屬ヨリ引離シテ別ニ *Ileodictyon* 卽チ  
かごたけ屬トスル學者モアルガ尙是等ノ異同ヲ辨别ス  
ルニ充分ナル完全ナ生標本ヲ得ンコトハ世界ノ菌類學  
者ノ皆切望シテ居ル所デアル

*Clathrus gracilis* (BERK.) SCHLECHT. ガ日本ニ産スル  
コトガ知レタノハ前ニモ記セル通リ大正七年ノ五月ニ  
只一個福島縣西白河郡大澤村デ鈴木重爲氏ガ之ヲ採集  
シテ何物トモ見當ガ附カヌナリニ保存シテ置イタモノ  
ヲバ大正十年八月二十九日附デ同地ノ今井直吉氏ガ菌  
類ノ一種ナルベシトシテ鑑定ノ爲私ノ手許ニ送ラレタ  
時デ、私ハ學名ヲ査定スルト共ニかごたけナル邦名ヲ  
與ヘタノデアツタガ其ノ標本ハ綿ヲ填メテ籠狀ナル本  
菌ノ形態ヲ能ク保タシメテアツタトハ言ヘ採集後三年  
モ經タル乾燥品デ海藻ノふのりヲ干シタ様ナ外觀ノモノデアツタ、斯ク邦產ノアルコトガ判明シタ以上何ウカ  
シテ再ビ本菌ガ發見サレ然モ多少共菌類採集ニ心得ノアル人ニ依ツテ完全ニ採集サレ完全ナル形態ヲ保持セル  
マ、可成速ニ私ノ手許ニ達スル様ニアツテ欲シイト年來切望シテ居タノデアル  
然ルニ幸ナル哉、而シテ豈料ランヤ、本菌ガ帝都ノ郊外東京府荏原郡、上目黒諭訪山ナル前司法大臣原嘉道氏  
ノ別邸庭内デ同氏ノ令息學習院高等科ノ原寛氏ガ之ヲ發見採集シソノ標本ヲ早速私ノ手許ニ送リ届テ吳レタノ

ハ實ニ意外デ斯學界ノ慶事デアルト大ニ欣ンダ次第デアル  
 従來斯ノ如キ稀菌ガ發見サレタ際ニハ採集者ガ多ク素人デアルカラ採集上ニ注意ガ足ラナクテ *Volva* (壺即チ  
 脚苞) ノ如キハ土中ニ殘シテ來ルノガ常デアルガ採集者原寛君ハ豫テ菌類ノ研究者デアツタカラ標本ハ完全ニ  
 採集サレタ上ニ直ニ寫真ニ撮影シタリ又色澤ヲ「スケッチ」シテ置イテ吳レラレタノデ鑑定上非常ニ都合ガ好  
 カツタ

茲ニ本菌ガ圖ラズモ日本デ第二回目ニ東京郊外デ發見サレタコトヲ報ジ同時ニ世界ニ向ツテ本菌ノ完全ナル形  
 態ヲ初メテ知ラシメルコトガ出來ルノニ就テ採集者原寛氏ニ大ニ感謝セネバナラヌ  
 茲ニ掲出セル第一圖ハ「ホルマリン」漬ニシタ後餘リ間ノ無イ時ニ予ガ寫生シタモノデ、胞子ヲ含ム闇綠色ナ  
 ル粘液ノ附着セル具合ハ予ガ觀タモノハ貯藏液デ粘液ガ大部分洗ヒ去ラレテ居ルカラ原氏ノ「スケッチ」ヲ參  
 考シテ之ヲ稍多ク着ケテ置イタ、又第二圖ハ液浸後時日ヲ經テ軟弱ニナツタ狀態ノモノヲ予ガ寫生シタモノデ  
 兩圖共ニ原圖ハ天然ノ色ニ描イテアル、第三圖ハ原氏ノ撮影ニ係ル寫真デアル、本菌ノ胞子ハ橢圓形デ淡綠色  
 ヲ帶ビ大サハ  $5 \times 2.5$   $\mu$  デアル

## ○やだけノ葉ノ灰像

大木麒一

### 一、緒言

灰像即チ「アッションビルド」(Aschenbild, Spodograms)ナル植物學上ノ言葉ハ千九百二十年ニ HANS MOLISCH  
 氏ニ依リテ始メテ用ヒラレタルモノニシテソハ植物灰ノ有スル形態ヲ意味スルモノナリ、氏ハ種々ノ植物ノ葉  
 ノ「アッションビルド」ヲ研究シテ公表セラレシガ其中ニ *Carex* sp. ト *Bambusa* sp. トノ葉ノ「アッションビル